

胃食道逆流

とは胃酸を多く含む胃内容物が食道に逆流して胸やけなどの症状を起こす疾患です。

またそれほど満腹でなくても胃酸があがってくるような感じの症状があり（これを呑酸といいます）、

内視鏡を行うと多くの場合、食道下部のしまりが悪くなっていることが観察されます。

さらに食道に潰瘍やただれが合併していれば逆流性食道炎として治療対象になります。

こんな**症状**があります

①胸やけ

②呑酸



③夜間臥床時の胃酸

逆流による咳

(睡眠障害)



こんな**原因**があります

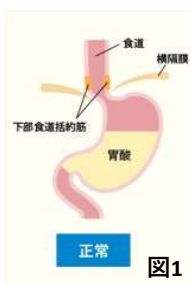


図1

①胃と食道の境には逆流防止機能があり、食道の末端部を取り巻く筋肉の収縮により、通常食道への逆流はありません。(図1)

②ところが多くは加齢により、木樽のタガが緩んでくるように締め付けが緩くなり、胃の内容物が食道に逆流するようになってきます。(図2)

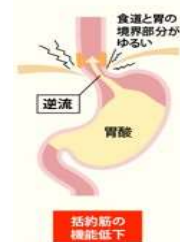


図2

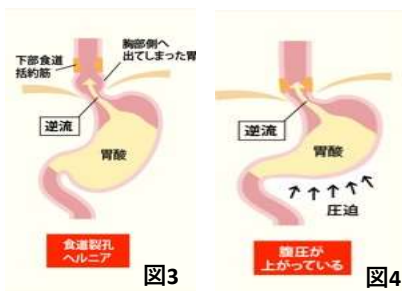


図3

図4

③さらに進むと胃の粘膜自体が食道へ脱出するヘルニア状態(図3)や腹圧上昇時(図4)にも同様のことが起こります。

診断と治療

内視鏡が必須です。

食道下部のしまりの悪さとそこから胃の粘膜が見られれば胃食道逆流症と診断できますが、症状のない場合も多く、この場合は特に治療の対象とはなりません。

症状がある場合

①内服治療
(主として制酸剤)

②肥満の改善

③腹六分くらいの
食事を心がける

④アルコールを
避ける

⑤食後すぐに横に
ならない

⑥脂の多いものや
ジュース、炭酸飲料を避ける

... 最後に ...胃食道逆流症によって潰瘍や粘膜のただれを合併する逆流性食道炎は紛れもない疾患です。

実際、食道下部が緩んでいる人は中高年ではほとんどに認められる現象であります。

逆流現象による胸やけなどの症状のある場合と逆流性食道炎の場合こそ治療対象となる疾患です。

ご心配な方は外来受診のうえ、胃内視鏡により精査、診断の上、至適な治療法を提示したいと思います。

